

「聴く」ことで治療的な何が生じるのか —ロジャースのビデオを詳細に検討して—

※当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期型研修会(ワークショップ)」の承認を受けております。＜承認期間:2022年7月2日～2027年7月1日 承認番号:20210392＞

期 日:2023年11月19日(日)

受講対象:心理・福祉・教育の現場に携わっている方、心理・福祉・教育専攻の大学院生、
およびご興味のある方

定 員:80名(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください)

受講料:8,500円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主催:公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

会場:明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします

東京都豊島区高田3-19-10

JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

❀ 企画講師 ❀

川寄 克哲 先生 : 学習院大学文学部 心理学科 教授

カウンセリングにはさまざまな学派がありますが、どの学派にも共通するカウンセラーの基本姿勢は来談者の方の話を真摯に「聴く」ことです。この「聴く」姿勢をカウンセリングの中心に据えたのがロジャースです。彼はとてもシンプルな「三つの原則」を提唱していますが、これら三つの原則も「聴く」ことを中心に据えて、その前提を示したものだといえます。

ロジャースは、精神分析のような複雑な考えは必要なく、カウンセラーはこの「三つの原則」をしっかりと身につけて来談者の話に耳を傾ければ、来談者自身が問題を解決していくのだと考えました(この意味で、ロジャースは「アンチ精神分析」の立場です)。

しかし、このような姿勢において「聴く」ということをきちんと行うことは実際には非常にむずかしいことです。本講座では、深層心理学的な視点も交えて、「聴く」ことがどうしてむずかしいのか、どのように実践していけばよいのか、また、「聴く」ことでいったいどういうことが生じてきて、それがどのように治療的な意味をもって展開していくのかということを理論的、実践的に丁寧に検討していきたいと思います。

初心のカウンセラーの方も経験を積んでいる方も、もう一度あらためて「聴く」ということを検討していくことでご自身の心理療法家としての力量が深まるような講座になればと思っています。

【企画講師 川寄 克哲】

【プログラム】

※カリキュラム・休憩時間等が変更になる場合があります。

スケジュール	時 間	テ ー マ
	10:00～11:20	「聴く」ことのむずかしさとその意味・意義
	11:30～12:50	「聴く」ことで何が生じていくのか(1)
	12:50～13:40	昼 食 (各自おとりください)
	13:40～15:00	「聴く」ことで何が生じていくのか(2)
	15:10～16:30	むずかしい事例において「聴く」ということ

ご参加いただく際の注意事項

■ 発熱または風邪の症状がある方、体調不良の方の参加はご遠慮ください。

■ 感染対策のため、会場では検温・手指消毒のご協力をお願いいたします。

■ 昼食は各自おとりください。

講義室内でお食事する方は、座席でお食事いただき会話はお控えください。

また、お食事以外はマスクの着用をお願いいたします。

■ 新型コロナ感染症対策につきましては、感染症分類が変更になった場合の対策によって変更となる場合がございますので、ご了承ください。

なお、詳細につきましては、当財団ホームページ（<https://www.my-kokoro.jp/>）を参照願います。

【お問合せ先】

公益財団法人 明治安田こころの健康財団

TEL 03-3986-7021

E-mail moushikomi@my-kokoro.jp